



TITLE:

所謂"Welfare Work"(労働階級ノ幸福増進問題)ニ就キテ

AUTHOR(S):

山本, 美越乃

CITATION:

山本, 美越乃. 所謂"Welfare Work"(労働階級ノ幸福増進問題)ニ就キテ.
経済論叢 1917, 5(1): 127-132

ISSUE DATE:

1917-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127228>

RIGHT:

京都帝國大學法學大科大學

經濟論叢

第五卷 第一號

大正六年七月一日發行

論說

生物進化論ノ誤解

理學士 川村多實二

露國ノ資本主義ト最近ノ大革命(二)

米田庄太郎

飛脚ノ變遷(二)

法學士 本庄榮治郎

現代的保險ノ成立(二)

法學士 小島昌太郎

時事問題

英國特惠稅問題

法學博士 戸田海市

會社使用人ノ慰勞賞與金ニ對所得稅課問題

法學博士 神戸正雄

雜錄

經濟雜誌(一〇)

法學博士 田島錦治

所謂“Welfare Work”ニ就キテ

山本美越乃

群馬縣ノ製絲業

法學士 河田嗣郎

基礎社會ノ發達ニ就イテ

文學士 高田保馬

國民經濟講話及貧乏物語ヲ讀ム

瀧本誠一

所謂“Welfare Work”(勞働階級ノ
幸福増進問題)ニ就キテ

山本美越乃

問題ニ就キテ 第五卷 (第一號) 一二七

雜錄

所謂 "Welfare Work" (労働階級ノ幸福増進問題) 二就キテ 第五卷 (第一號 一二八) 一二八

婦人及幼少年者ノ工業労働ニ使傭セラルルコト今日ノ如クニ盛ナルハ、世界ノ工業史上ニ殆ンド先例ヲ見ザル所ニシテ、殊ニ工業國中ノ工業國タル英國ニ於テハ、今次ノ大戰以來女子労働ノ範圍ハ頗ル擴張セラレ、苟クモ男子ノ從事セル労働ニハ、僅少ノ例外ヲ除ク他ハ、女子ノ之ニ加ハラザル者ナキニ至レル實況ハ、昨一九一六年十月ノ商工務院ノ調査ニ據ルモ明カニシテ、一九一四年乃至一六年間ニ女子被傭者ノ増加シタル數及男子ニ代リテ其ノ地位ヲ占メタル者ノ數ヲ擧グルモ左ノ如シ(註)

職業別	一九一四年		自一九一四	
	六月現在女子被傭者概數	一九一四年六月現在女子被傭者概數	同期間内ニテ其ノ地位ヲ占メタル女子被傭者概數	同期間内ニテ其ノ地位ヲ占メタル女子被傭者概數
工業従業者	111,700	124,000	124,000	124,000
商業従業者	12,000	12,000	12,000	12,000
書記及之ニ類スル業務ニ従事スル者	14,000	14,000	14,000	14,000
銀行及金融業ニ従事スル者	14,000	14,000	14,000	14,000
旅館、宴會場、娛樂場等ニ使傭セラルル者	15,000	15,000	15,000	15,000
農業従業者	110,000	110,000	110,000	110,000

交通運輸ノ業務ニ従事スル者	15,000	15,000	15,000
造船廠、船渠、造船所等ニ使傭セラルル者	15,000	15,000	15,000
官公署ニ使傭セラルル者	15,000	15,000	15,000
合 計	111,700	124,000	124,000

然レドモ本來體質上ニ於テ男子ト異ナル所アルノミナラズ、嘗テ力役的ノ労働ニ對シテハ何等ノ經驗ヲ有セズシテ、唯戰時勞力ノ缺乏ニ基ヅク賃金ノ騰貴ニ誘ハレテ労働市場ニ突進セル者多キヲ以テ、近時ニ至リテハ過度ノ労働及過重ノ負擔ノ、彼等ノ健康上ニ有害ナル影響ヲ及ボシツツアルコト漸ク一般ノ認ムル所トナリ、之ガ救済ノ手段トシテ所謂 "Welfare Supervision" 即チ労働者ノ使用方法ニ注意シテ其ノ幸福ヲ圖ランガ爲メニスル監督ハ極メテ重要視セラルルニ至レリ、其ノ結果雇主等モ從來ノ如クニ労働者ヲ一團トシテ全く無差別のニ之ヲ取扱フコトヲ避ケ、成ルベク個人的ノ事情ヲ調査參酌シテ、最モ能ク之ニ適セル労働ヲ課スルノ方針ヲ探ラントスルノ傾向ヲ生ジ來レリ、殊ニ婦人及幼少年者ヲ男子ノ代用トシテ使用シツツアル軍需品

(註) Board of Trade Labor Gazette for October, 1916, p. 357.

ノ製造工場ニ對シテハ、政府自ラ率先シテ此ノ方針ヲ實行セシメンガ爲メニ特ニ監督部ヲ設ケ、過去二十年間自己ノ工場ニ於テ斯カル調査ヲ遂ゲ其ノ經驗ニ富メルローランド・ウーリー氏("Poverty"ノ著者トシテ其ノ名夙ニ著ハル)ヲ推シテ部長トナシ、漸次國內ノ各種ノ工場ニ對シテモ此ノ方針ヲ普及セシメンコトニ努メツツアリ。

"Welfare work"ノ何タルヤニ關シテハ、該監督部員ぶらうど女史(註一)ハ『現在ノ工業組織ニ何等ノ變更ヲ加フルコトナクシテ、唯雇主が自ラ進ンデ自己ノ工場内ニ於ケル勞力使用ノ方法ヲ改善センコトニ努ムル様指導獎勵スルヲ以テ主眼トナス』ト言フガ故ニ、(註二)該計畫ハ毫モ現在ノ社會制度ヲ改廢シ、若クバ雇主ノ自由意志ニ拘束ヲ加ヘントスルモノニ非ズ、唯勞力ノ使用方法ノ改善ニ關スル最少限度ノ希望トシテ一定ノ標準ヲ示シ、是レ以下ノ取扱ヲ爲ス者ニ對シテハ、少クトモ此ノ最少限度ノ標準ハ之ヲ遵守セシメンコトヲ獎勵スルニ過ギズ。

由來勞力ノ使用ニ關スル制限ノ規定ナルモ

ノハ、雇主ノ社會ニ對スル義務觀念ノ熾烈ナル所ニ於テハ、敢テ他ノ強制ニ俟ツコトナク、自ラ進ンデ適當ノ方法ヲ講ズベキ性質ノモノタリ然ルニ其ノ茲ニ至ラズシテ、或ハ工場法ノ規定ニ依リ、或ハ其ノ他ノ方法ニ依リテ特ニ強制ヲ必要トスルニ至ル所以ハ、畢竟雇主自ラ眼前ノ利益ヲ計ルニノミ急ニシテ、社會ニ對スル義務觀念ノ之ガ爲メニ蔽ハレツツアルニ原因セズンバアラズ、然カモ斯カル制限ノ規定ハ、一八〇二年ニ初メテさー、ろばーと、ビーるニ依リテ提案セラレタルヨリ以來、今日ニ至ル迄毫モ雇主ノ永久ノ利益ト扞格スル所ナキノミナラズ却テ彼等ノ社會ニ對スル義務觀念ノ覺醒ニ與カリテ力アリシコトハ疑フベカラザル事實タリ、此ノ如クシテ今ヤ自覺セル雇主等ハ特ニ國家ノ強制ニ俟ツコトナクシテ、勞力ノ保護ニ關スル必要ナル施設ハ、進ンデ之ヲ爲サントスルノ風ヲ生ジ來レルモ、唯如何ナル點ニ改善ヲ加フルノ要アルベキヤハ、彼等自ラ往々感知シ得ザルモノアリ、故ニ"Welfare Supervision"ハ主トシ

(註一) E. D. Proud. Welfare Work. Employers' experiments for improving welfare work in factories, ナル近著(昨年出版)アリ、

(註二) Monthly Review of the U. S. Bureau of Labor Statistics, Dec., 1916, p.82.

テ各工場及勞働者ニ就キテ斯カル點ヲ調査探求シ、之ニ對シテ相當ノ意見ヲ附シテ雇主ノ參考ニ供シ、且之ガ實行ヲ獎勵セントスルモノタリ、“Welfare work”ノ目的ハ此ノ如ク頗ル廣汎ニシテ、苟クモ勞働者ノ福祉ヲ進メ、延テ彼等ノ勞働効程ヲ増進セシムベキ施設ハ、一トシテ之ニ關與セザルコトナシト雖ドモ、就中其ノ最モ全力ヲ傾注シツツアルハ、(一)賃金、(二)勞働時間、(三)工場内ノ設備、ニ關スル問題ナリトス。而シテ是等ノ問題ノ攻究ニ就キテハ、常ニ(一)勞働者ノ肉體的幸福、(二)精神の啓發、(三)個人の體面ノ維持、ノ三方面ヨリ之ヲ考察シテ、其ノ最モ適當ト信ズル所ニ從フテ諸般ノ改善ヲ促サシメントスルニ在リ、例ヘバ賃金問題ニ關シテハ現ニ勞働者ノ受クル賃金ハ、果シテ能ク當該勞働ノ繼續ニ堪エ得ベキ生活ノ資料ヲ得、其ノ勞働効程ノ増加ニ必要ナル知識ヲ收得セシムルニ足リ、又彼等ノ職業ニ相當スベキ體面ヲ維持スルニ不足スル所ナキヤ、雇主ニ過重ノ負擔ヲ爲サシムルコトナクシテ、然カモ勞働者ノ收入ヲ

増加セシメント欲セバ、事業ニ依リ又其ノ人ニ應ジテ賃金支拂ノ方法ニ變更ヲ加ヘ(時間拂制度ヲ改メテ仕事拂トナシ、又ハ仕事拂制度ヲ改メテ時間拂トナスノ類)、若クバ或種ノ獎勵方法ヲ講ズルノ要ナキヤ、更ニ某勞働ニ對スル適不適ト賃金ノ關係ヲ調査シテ適所ニ適材ヲ配置セシムル等、凡テ雇主及勞働者ノ双方ノ利益ヲ考慮シテ此ノ問題ノ解決ニ指針ヲ與ヘ、勞働時間ノ問題ニ關シテモ、現ニ開戦以來各種ノ工場ニ於テ勞働時間ヲ延長スルノ止ムナキニ至リタルモ、其ノ結果ハ寧ロ不良ニシテ、勞時ノ延長ハ之ニ比例シテ其ノ生産額ヲ増加セシムルモノニ非ズトノ從來ノ通説ヲ、一層明瞭ニ事實上ニ立證シ得タルヲ以テ、一定ノ勞働ニ對シテ最モ有利有效ナル勞働時間ノ研究、夜業ノ得失、交代勞働制採用ノ可否、休憩時間及休日制度ノ適當ナル安排等ニ就キテ、前述ノ三方面ヨリ考察シテ雇主ノ參考ニ資スベキ點ヲ指示シ、又工場内ノ設備ニ關スル問題ニ付キテハ、空氣ノ流通、光線ノ透入、乾濕冷温ノ度ノ調節、危險ノ虞レ

アル器械等ニ對スル防備、食堂浴室休憩場等ノ衛生上ノ設備ヨリ、進ンデ娛樂機關及教育機關等ニ至ル迄、最モ有效ナル制度ノ考案及其ノ實行ニ關スル意見ヲ雇主ニ示シ、此ノ如クシテ啻ニ資本ト勞力ノ調和ヲ計ルノミナラズ、更ニ勞力ト事業トノ調和ヲモ計ラントスルコトハ、所謂“Welfare work”ノ最終ノ目的トスル所ナリトス。

要之、現今各國ニ行ハルル工場法ハ、消極的ニ一國ノ勞力保全ノ目的ヲ達セントスルモノナルニ反シ、“Welfare work”ハ積極的ニ同一ノ目的ヲ達セントスルモノタリ、故ニ苟クモ一國ノ勞力ヲ完全ニ保護セント欲セバ、啻ニ消極的ノ制限の規定ニ充テル工場法ノミヲ以テハ未ダ足レリトセズシテ、更ニ積極的ニ諸般ノ改善の施設ヲ獎勵セントスル“Welfare work”ノ極メテ肝要ナルベキハ言ヲ俟タズ、此ノ種ノ制度ハ固ヨリ從來ト雖ドモ實行セラレザリシニ非ズト雖ドモ、最近殊ニ其ノ必要ヲ力説セラルルニ至リシ所以ハ、前述ノ如ク今次ノ大戰以來各種ノ事業ニ婦

人及幼少年者ノ使傭セラルル者著シク増加シ、然カモ彼等ハ成年男子ノ勞働者ト異ナリ自防自衛ノ能力ヲ缺ケルガ故ニ、特ニ之ヲ庇護スルニ非ズンバ將來頗ル寒心スベキ結果ヲ生ズルノ危險アルコトヲ痛切ニ感ジ來レルヲ以テナリ、從テ“Welfare work”ノ監督ノ任ニ當ル者モ、現今ハ男子ヨリモ寧ロ女子ヲ適任者トナスモノノ如シ、是レ蓋シ日常婦人及幼少年者ニ接シテ、彼等ノ特殊ノ希望又ハ要求ヲ探知スルコトハ、男子ヨリモ女子ヲ以テ便トナス事情アルニ因ルモノナリ。

翻テ之ヲ我が國ノ實況ニ徴スルニ、我レニ在リテハ成年男子ノ勞働者間ニ於テスラ、現今ハ未ダ自防自衛ノ目的ヲ達シ得ベキ完全ナル組織ヲ有セズ、故ニ一國ノ勞力保全ノ根本主義ヨリ論ズル時ハ、工場法中ニ成年男子ノ勞働ノ保護ニ關シテモ亦相當ノ規定ヲ設クルヲ以テ、寧ロ我が國ノ現狀ニ適シタルモノトナスベキ幾多ノ理由アリ、彼ノ歐米ノ工場法ガ特ニ成年男子ノ勞働ノ保護ニ關シテ規定ヲ設ケザルモノ多キ所

以ハ、彼レニ在リテハ成年男子ノ勞働者等ハ、完全ナル自防自衛ノ機關即チ自治の組合ノ組織ヲ有スルガ故ニ、必ラズシモ國法上ニ之ガ規定ヲ設クルノ要ナシト雖ドモ、我が國ニ於テハ未ダ斯カル機關ノ發達ヲ見ルニ至ラザルヲ以テ、成年男子ノ勞働ニ對シテモ或程度迄ハ、工場法中ニ之ガ保護の規定ヲ設クルノ必要アリト言ハザル可カラズ、既ニ消極的ニ一國ノ勞力保全ノ目的ヲ達セントスル工場法ニ於テスラ其ノ不備ナルコト此ノ如シ、況ンヤ積極的ニ其ノ目的ヲ達セントスル“Welfare work”ノ如キニ至リテハ、極メテ、小部分ノ特志者ヲ除ク外ハ、未ダ一般ニ其ノ必要ヲスラ感知セラルルニ至ラズ、然レドモ此ノ種ノ問題ハ我が國ニ於テモ亦早晚實現セラレザル可カラザル所ノモノタリ、而シテ斯カル改善的ノ施設ノ實行ニ關シテハ、一般經濟社會ノ景況ハ最モ密接ナル關係ヲ有スルヲ以テ、事業界ノ活氣ヲ呈シツツアル現今ノ時代ノ如キハ、之ガ實行ニ好機會ヲ供スルモノト謂フヲ得ベシ、吾人ハ時局ノ恩惠ニ因リ自ラ勞セ

ズシテ莫大ノ利益ヲ收メ得タル我が國現時ノ企業者ニ對シ、此ノ機會ニ於テ彼等ノ協力者トシテ其ノ利益ノ獲得ニ努力シツツアル勞働階級ノ幸福増進問題ノ解決ニ着眼スルコトハ、最モ崇高ナル國家社會ニ對スル義務ノ一タルコトヲ警告セントスル者ナリ。